

## 六甲山のキノコにはどんな多様性があるのか ～地域連携から伝える生物多様性～

阿波田みのり 中原雨音 廣岡季陽里 西端実弥美 砂川真智子 成将希 吉田みやび  
辻 彩乃 (兵庫県立御影高等学校 環境科学部生物班)

### はじめに

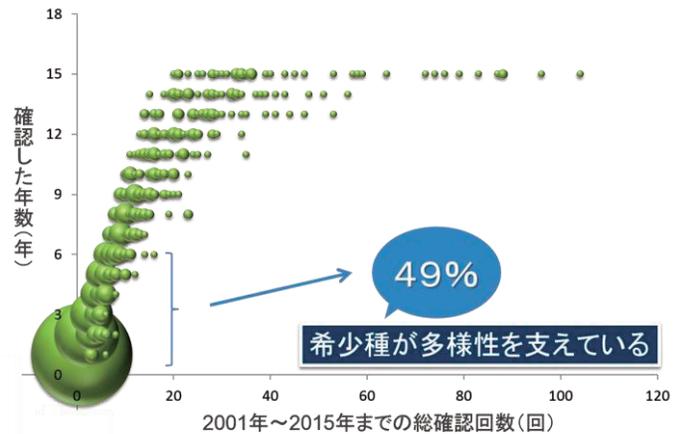
本校では平成20年度から兵庫県立人と自然の博物館・兵庫きのこ研究会と協力しながら六甲山のキノコの調査を行っている。六甲山の再度公園(ふたたびこうえん)のキノコの多様性を多くの人に伝えることが活動の目的である。長期モニタリングよりキノコの多様性を分析・確認し、企画展などで標本を展示して、実際に多様性を多くの人に見せる活動を展開している。

### 調査方法

- ①2001～2015 までのキノコの観察記録から、キノコの出現頻度などを調査
- ②キノコごとに気温と降水量の選好性を Jacobs の式で算出し、好む環境を調査
- ③採取したキノコを標本化し、様々な場所で展示公開

### 結果と考察

- ① 2015 年度の総確認種数は 368 種で新しく見つかった種は、同定未確定種を含めて 57 種であった。
- ② 出現傾向を見ると全種数のうちの半数近くを出現頻度の低い種が占め、希少種が多様性を支えていることが分かった。
- ③ 出現頻度の高い 105 種の嗜好指数を調べ、好む気温と降水量を調べると、菌根菌に高温多雨環境を好む傾向が見られた。
- ④ 9 年間で約 500 種、1000 点以上のキノコを標本化し企画展などで公開し、地域の方々に多様性を伝えた。



キノコの出現傾向の分析 (2001～2015)

モニタリング調査から、六甲山再度公園のキノコの状態を常に見守り、その魅力を地域に発信することで多様性への理解が進んだ。これからもこのような活動から、人々の環境への意識を高めていきたい。また多くの団体と連携しながら活動することで、教育現場から地域の活性化をこれからも広げていきたい。



7月 子どもキノコ観察会



11月 福井原子力センターでのキノコ展